



進路だより No.8

令和5年12月
県立尼崎西高等学校
学習支援部

今月は合格ラインの突破戦略と併願校の選び方についてまとめます。いよいよ共通テストや一般入試が近づいてきました。合格まであとひと踏ん張りです。得点が伸びる学習を積み重ねて、合格を勝ち取ろう！すでに進路が決定した生徒も、頑張っている友人の背中を押せるように、残りの高校生活に全力で取り組もう！



尼西応援キャラクター
あまエッコ君

<<合格ラインの突破戦略>>

入試の合否は「総合得点」で決まる。合格するためには、総合得点で合格者と不合格者の分かれ目となる得点＝合格最低点を上回ればよい。この合格ラインを意識しながら得点戦略を立てよう。

(1) 私立大一般選抜

合格者の約4割が合格最低点＋10点のゾーンに含まれていることも少なくない。合格ライン付近では総合的にほぼ同学力の受験生がひしめき合い、わずか1点差で合否が決まってしまうこともしばしば。合否を分ける1点の壁を超えるには苦手科目の克服が重要だ。得意科目は苦手科目を多少はカバーできるが、極端な苦手科目は得意科目の足を引っ張ることを覚えておこう。一般的に私立大の合格ラインは60～70%が目安だが、科目数が少なく負担が少ない入試では合格ラインが高くなる傾向がある。

(2) 過去問演習

得意科目は過去問演習や応用問題でレベルアップし高得点を狙う「攻め」の学習をしよう。逆に苦手科目は教科書や模試の復習で基礎を固めて失点を防ぐ「守り」の学習をしよう。また本番で適切に時間配分するため演習時から制限時間を意識し、時間の間隔を染み込ませておくことも大切!

(3) 試験本番

試験で何よりも大切なのは時間配分。難問に時間を費やすより、解ける問題を優先し、部分点を狙う冷静で粘り強い取り組みで得点を積み重ねよう。問題が配られたら全体にさっと目を通し、解けそうな問題から優先的に取り組むこと。

<<併願校の選び方>>

(1) 併願の目的

併願を計画するにあたって、まずは併願の目的や狙いを明確にすることが大切だ。例えば、併願の目的が「浪人を絶対に回避したい」であれば、計画の軸は「合格難易度や入試との学力的相性を考え、納得して入学できる大学を探る」こととなるし、目的が「難易度の高い大学に合格したい」であれば、軸は「その対策時間を十分に確保するため、併願校の受験対策を効率化できるような併願を考える」ことになる。ただし、「第一志望校あつての併願」なので、第一志望校の合格を最優先して計画すること。第一志望が決まっていない人は、まずはそれを確定させよう。



(2) 入試科目

①第一志望校と併願校とで受験科目を共通化する

受験科目を共通化することで受験対策が効率化され、第一志望校合格の可能性が高められる。

②各科目の配点や比率に注目し得点戦略を考える

入試科目を確認する際は、各科目の配点やその比率にも注目。得意科目の配点が高く、苦手科目の配点が低ければ、受験を有利に戦える。

③選択科目や出題範囲もチェックする

理科、地歴、公民などは自分の履修科目が選択可能か確認する。数学・理科の出題範囲や、国語で古文・漢文を含むかなども見逃さないこと。受験校間の出題範囲の違いも受験対策の効率に影響する。

(3) 難易度

①合格圏の目安は自分の偏差値±3~5

受験校は上記の偏差値帯の大学から選ぼう。おやみに挑戦しても成功しない。とはいえ現役生は直前に実力が急上昇することも多い。高望みと思える大学でも学習戦略によっては手が届く可能性がある。

②実際の難易度や相性を過去問でチェックする

合格難易度はあくまで目安に過ぎない。過去問で出題内容や各設問の難易度を確認し、合格ラインとの距離を測ろう。問題との相性がよければ、数値上は厳しくても合格の可能性が出てくる。

③入試条件の変更など難易度の変動要因にも注意

入試の難易度はさまざまな条件によって年度ごとに変動する。以下の4つのポイントを押さえよう。

- ・前年の入試結果の反動…前年度の急激な志願者増は敬遠され、志願者減は人気アップの傾向あり。
- ・負担の増減…入試科目数が増えると志願者減、減ると志願者増に結び付く傾向あり。
- ・学部の増設、定員の変更…募集人員が増減した場合、それに合わせて志願者も増減する傾向あり。
- ・同地区の玉突き…前年度に志願者が急増した大学があると近隣の大学へ志願者が流出する傾向あり。

(4) 出願数・スケジュール

無理のない出願数・日程に調整し、万全の状態です試験に挑もう。出願数の目安は5~6校程度とし、「目標校1、実力相応校3、合格確保校2」が基本パターンだ。本命校しか眼中にない人も、その受験前に1回は個別試験を経験しておくこと安心だ。また受験の順序や間隔にも要注意！受験日程については、第一志望校の試験日を中心に考え、そこに学力・体力・メンタルのピークが来るように調整するのが原則。受験日の間隔については、4日以上試験が続くような過密日程は避け、頭を切り替え、心身を休める時間的余裕がある日程を組もう。受験直前期は学力が大きく伸びる時期なので学習日を確保することも忘れず、受験日程を計画しよう。

<<受験にかかるお金の話>>

受験するうえで無視できないのが、その費用だ。受験料は共通テストが3教科以上で18000円、国公立大の個別試験が17000円、私立大は独自入試が35000円、共通テスト利用入試なら15000~20000円が目安だ。さらに合格した併願校への入学権利を保持するための入学金なども必要になる。特に入学金は20万~30万円が目安で、一般的に入学を辞退しても返金されないため、大きな負担となる。必ず入学金の手続き締切日を確認し、支払いの重複を回避しよう。なるべく志望順位の低い大学の入学手続き締切日の前に、志望順位のより高い大学の合否が分かるように併願校を調整しよう。